

## イネカメムシ

【学名：*Lagynotomus elongatus* (Dallas)】



若齢幼虫



中齢幼虫



成虫

### 【見分け方】

- ・体長 成虫：12～13 mm。
- ・形態 幼虫：丸く扁平な形  
成虫：やや長め、楕のような形。薄い茶褐色。

### 【生態】

- ・成虫はススキや樹木などの根元や枯葉の下などで越冬し、6月下旬～7月上旬頃に水田への飛来が見られます。
- ・早生品種から中生品種へ出穂した水稻へ移動しながら増殖し、年1.2世代を繰り返します。
- ・周囲より出穂が早い水田や、遅い水田へ集中して飛来します。
- ・夜行性のため、早朝などはその姿を確認しやすいです。日中はイネの株もとに潜むため発生に気が付かず、大きな被害が発生することがあります。

### 【被害】

- ・主に子実粒の基部（胚芽付近）を加害します。

#### （登熟初期の被害）

加害を受けた胚は激しく発育を阻害され、割れ米やシイナとなる場合が多いです。被害が甚大な場合、数 ha 規模で不稔となり成熟期を迎えても傾穂しない様子が見られます。

#### （登熟中後期の被害）

被害を受けた基部が褐変し、特徴的な斑点米（基部加害粒）となります。



【対策】

- 出穂前の水田に侵入し、不稔を発生させることが確認されているため、多発地域では出穂はじめに防除しましょう。
- 斑点米被害防止のため、発生が多い場合は出穂期以降の2回目防除も検討しましょう。

(要防除水準)

2頭以上/20回振り

(防除時期)

出穂始期とその10日後に2回